

第16回史跡小牧山整備計画策定会議記録

日時	平成27年5月27日（水）午後2時00分～3時35分
場所	小牧市役所 本庁舎 4階 404会議室（設備不調により6階 601会議室へ変更）
出席者	<p>委員</p> <p>池田洋子 委員                      藤岡幹根 委員</p> <p>渡邊守男 委員                      松永幸男 委員</p> <p>前原宏一 委員                      梶間 巧 委員</p> <p>吉田憲生 委員                      舟橋逸喜 委員</p> <p>澤木厚司 委員</p> <p>助言者</p> <p>松本 彩 愛知県教育委員会主事</p> <p>事務局</p> <p>安藤和憲 教育長                      大野成尚 教育部長</p> <p>舟橋 泉 教育部次長                      村田吉隆 小牧山課長</p> <p>浅野友昭 史跡係長                      坪井裕司 主査</p> <p>小野友記子 主査                      増田 聖 主事</p>
欠席者	<p>速水 昭典 委員                      沖本 喜久江 委員</p> <p>小林 直浩 委員</p>
傍聴者	3名
配布資料	<p>資料1-1 （仮称）史跡センター整備基本構想（案）（概要版）</p> <p>資料1-2 （仮称）史跡センター整備基本構想（案）</p> <p>資料2-1 史跡小牧山発掘調査主郭地区第7次発掘調査 調査の概要報告</p> <p>資料2-2 近世城郭のルーツ 小牧山城 石垣がかたる信長の城づくり主郭地区発掘調査から</p> <p>資料3 史跡小牧山整備スケジュール（案）</p> <p>その他資料 委員名簿、史跡小牧山整備計画策定会議設置要綱</p>

■議事録

【事務局（村田）】

本日は、ご多忙の中、第16回史跡小牧山整備計画策定会議にご出席を賜りまして、ありがとうございます。

本来であれば、委嘱状については、交付式をとり行わせていただくところですが、本会議におきましては、略式でございますが、机上の配付をもってかえさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

初めに、教育長の安藤からご挨拶を申し上げます。

## 1. あいさつ

### 【安藤教育長】

皆さん、こんにちは。教育長の安藤と申します。

委員の皆様には、大変暑い中、そしてご多用の中、本策定会議にご出席をいただき、大変ありがとうございます。

皆様ご存じのように、昨年度まで、小牧山整備に関しましては文化振興課で担当しておりましたが、今年度より小牧山課という課が分設され、今後、小牧山の整備に関しては、小牧山課で担当することになりましたので、ご報告させていただきます。

現在、小牧山につきましては、旧庁舎の取り壊しが終わり、芝が打ってありますが、今後復元に向けて、工事を進め、今年度、次年度で整備工事が完了する見通しです。

本日は、議題、報告の中で整備計画の全体像をお示ししたいと思っておりますので、委員の皆様には忌憚のないご意見をお聞かせ願いたいなあと考えております。

よろしくお願いいたします。

### 【事務局（村田）】

この策定会議は、前回平成26年8月に開催をし、それ以来の開催となります。今回、この会議に初めてご出席をいただく方がほとんどと思っておりますので、現在、小牧市が進めております史跡小牧山整備計画本策定会議について、簡単に説明をさせていただきたいと思っております。

小牧城、小牧山につきましては、織田信長による初めての城づくりや、小牧・長久手の合戦での徳川家康が本陣としたことなどで知られております。史跡小牧山は、戦国時代に日本史上、重要な役割を果たした場所であることは皆様ご承知のとおりでございます。現在も、私たち小牧市民の心のよりどころであり、シンボルとして大切な存在と考えております。

小牧市では、その小牧山の持つ価値をさらに高めるため、長期的な視野に立ち、保護と活用のバランスのとれた史跡整備を目指してまいりたいと考えております。さまざまな事業を進めておるところですが、平成10年度に策定し

た史跡小牧山整備計画基本構想に基づき、整備の優先度から早期・中期・長期と整備スケジュールが組まれております。

早期に位置づけられた旧小牧中学校跡地については、平成15年度までに調査と整備が完了し、史跡公園として現在多くの方に親しまれております。今は、中期整備の段階にありまして、山頂を中心とした主郭地区、市役所旧本庁舎跡地、（仮称）史跡センターなどの整備事業に取り組んでおります。

整備計画を推進するに当たり、本市は、この会議であります市民の代表による史跡小牧山整備計画策定会議や研究者、有識者による専門委員会を組織し、この会議において、整備のあり方について検討・議論をいただきながら、文化庁、愛知県教育委員会のご指導を仰いで整備を進めてまいりたい方針です。

皆様におかれましては、史跡小牧山の利用の基本方針、整備基本構想、整備基本計画、管理計画などについてご審議いただくことで、委員に委嘱させていただいております。

史跡整備には、過去から引き継いだ歴史・文化財というバトンを、価値を損なうことなく未来へ引き継いでいく、大変大きな責任があります。委員の皆様におかれては、現在はもとより、5年、10年、さらには50年、100年先まで小牧市として誇れるような小牧山にするため、皆様の貴重な知識と経験でもって、ぜひお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

前置きが長くなり申し訳ありませんが、初めての方もいらっしゃいますので、簡単に自己紹介をいただきたいと思います。本日は、愛知県の松本様もおいでいただいております。なお、速水委員、沖本委員につきましては、本日、欠席の連絡をいただいておりますので、先にご報告をいたします。

それでは、名簿順ではございますが、池田委員から自己紹介をお願いします。

**【池田委員】**

池田です。名古屋造形大学で日本美術史の、主に絵画を中心に研究を行っております。よろしく願いいたします。

**【事務局（村田）】**

藤岡委員、お願いします。

**【藤岡委員】**

文化財保護審議会から出させていただいております三ツ瀨小学校の藤岡といえます。よろしく願いいたします。

**【事務局（村田）】**

渡邊委員、よろしいでしょうか。

**【渡邊委員】**

市の文化協会の渡邊でございます。どうぞよろしく申し上げます。

**【事務局（村田）】**

松永委員、よろしいでしょうか。

**【松永委員】**

区長会で、派遣されました松永と申します。

私、実をいいますと、日本の城、330ほどを回っておりまして、何かご縁があったのかなと今思っているところでございます。よろしくお願ひいたします。

**【事務局（村田）】**

前原委員、お願ひします。

**【前原委員】**

村中小学校の前原と申します。小・中学校を代表して、小学校の児童、中学校の生徒の視点でと申しますか、その視点で出席しております。現に本校も、この4月に1年生と2年生と5年生が春の校外学習で小牧山を訪れております。そういった視点で、ご意見を出ささせていただけたらと思っております。よろしくお願ひいたします。

**【事務局（村田）】**

梶間委員、よろしいでしょうか。

**【梶間委員】**

梶間と申します。

今年度より、社会教育委員の中から未熟な者ですが、参加させていただき、勉強させていただくことになりました。よろしくお願ひいたします。

**【事務局（村田）】**

吉田委員、よろしいでしょうか。

**【吉田委員】**

一般社団法人小牧青年会議所からまいりました吉田憲生と申します。

歴史ある小牧山について、私自身も勉強していく部分もあり、楽しみにやっ  
てまいりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

**【事務局（村田）】**

舟橋委員、よろしいでしょうか。

**【舟橋委員】**

市役所の関係部署から参加をさせていただいております。市長公室次長の舟

橋と申します。どうかよろしく願いいたします。

【事務局（村田）】

澤木委員、よろしいでしょうか。

【澤木委員】

シティプロモーション課で小牧の魅力を発信する部署を所管しております、地域活性化営業部次長の澤木と申します。よろしく願いします。

【事務局（村田）】

ありがとうございます。

愛知県教育委員会文化財保護室主事の松本様もおいでいただいております。

松本様、よろしいでしょうか。

【松本委員】

愛知県教育委員会文化財保護室の松本と申します。

今年度より、野口にかわりまして、こちらの方を担当させていただきます。

よろしく願いいたします

【事務局（村田）】

ありがとうございました。

続きまして、事務局について自己紹介をさせていただきます。

教育長の安藤につきましては、ご挨拶をさせていただいたところでございます。

部長の大野でございます。

【大野教育部長】

教育部長の大野です。本年も、どうぞよろしく願いします。

【事務局（村田）】

係長の浅野でございます。

【事務局（浅野）】

小牧山課史跡係長の浅野と申します。よろしく願いします。

【事務局（村田）】

担当の小野、坪井、増田でございます。

【事務局（小野）】

小野です。よろしく願いします。

【事務局（坪井）】

坪井です。よろしく願いします。

【事務局（増田）】

増田と申します。よろしくお願いいいたします。

**【事務局（村田）】**

申し遅れましたが、私、この4月から小牧山課長になりました村田と申します。よろしくお願いいいたします。

なお、舟橋委員、澤木委員におかれましては、本日午後4時から別の会議に出なければいけないということでもありますので、その時間になりましたら、両委員につきましては途中退席させていただきます。あらかじめお断りさせていただきます。

**2. 策定会議会長・副会長選任**

**【事務局（村田）】**

それでは、次第の2. 策定会議会長・副会長の選任に移ります。

お手元の会議の設置要綱第5に、策定会議の会長及び副会長は委員の互選により選出するとあります。会長・副会長の選任につきまして、どなたか発言がありましたらお願いします。

**【前原委員】**

どなたを推薦していいのかわからないので、事務局の方で案をお持ちでしたらご提示いただけると。

**【事務局（村田）】**

前原委員から事務局案とのことで、事務局の案をご提示させていただきたいと思えます。

事務局としましては、前回、会長をお務めいただきました池田委員に会長を、同じく副会長をお務めいただきました藤岡委員に副会長をお願いできればと思えますが、いかがでしょうか。

(拍手)

ありがとうございます。委員の皆様のご賛同をいただきましたので、池田会長、藤岡副会長、よろしくお願いいいたします。

お席のご移動をお願いします。

**3. 策定会議会長あいさつ**

**【事務局（村田）】**

では、池田会長からご挨拶を頂戴いたしたいと思います。よろしくお願ひします。

**【池田会長】**

改めまして、池田です。よろしくお願ひいたします。

先ほど言い忘れましたが、文化財保護審議会から私は出ておりまして、現在、文化財で小牧についての全体と、その中で小牧山に伴う発掘調査など、いろんなところを見てまいりました。どんどん新しいものが出てきて、これは大事なものだから、きちんと保護したいと考えております。皆様のご協力とご意見をいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

私はこういうところが不慣れなものですから、うまく流れもできないかもしれませんが、ご協力とご助力を願ひいたします。

・会議公開について

**【事務局（村田）】**

ありがとうございました。

それでは、次第5. 報告に移る前に、会議の公開についてご説明をさせていただきます。

お手元の本会議の設置要綱第9に記載がございますが、平成27年度の組織改正に伴い、本会議の準備につきまして小牧山課がとり行うこととなりました。これにあたり、本会議の運営について改めて確認、整備をいたしましたところ、本会議については原則公開会議とすることが妥当であるという考えに至りました。

小牧市審議会等の会議の公開に関する指針の第4条に、審議会等の会議の公開、または非公開の決定は、前条の基準に基づき審議会等の長が当該会議に諮って行うものとするとのありますので、池田会長に取りまとめをお願いしたいと思ひます。

**【池田会長】**

皆様の机の上にごございます審議会公開に関する指針の第3条を読みますと、確かに特別な場合を除いて公開する、ということです。この会議も公開が妥当だと思われませんが、公開及び非公開について皆様方のご意見、何かございましたら願ひします。

(挙手する者なし)

【池田会長】

特にご意見がないということでしょうか。

それでは、この指針に従い、会議の公開に賛成の方は挙手をお願いします。

(賛成者挙手)

【池田会長】

全員が公開に賛成ですので、本会議は、以後公開会議とさせていただきます。

会議の公開・非公開について決定しましたので、事務局にお返しいたします。

【事務局（村田）】

ありがとうございました。

会議の公開が決定されましたので、傍聴について可能とさせていただきます。

なお、本日は、傍聴者の方が3名おられますので、ご報告を申し上げます。

会議の公開に伴い、会議録につきましては市のホームページ等で公開をいたします。あらかじめご了承くださいませよう、お願いいたします。

## 5. 報告

【事務局（村田）】

それでは、次第の5. 報告に移らせていただきます。

以下の議事進行につきましては、池田会長、よろしく申し上げます。

### (1) (仮称) 史跡センター整備基本構想(案) について

【池田会長】

それでは、会議の次第により、報告事項の(1) (仮称) 史跡センター整備基本構想(案) について、事務局に説明をお願いします。

【事務局（小野）】

報告(1) (仮称) 史跡センター整備基本構想(案) について、事務局より資料の1-1、1-2に基づき、委員の皆様にご説明を申し上げます。

(仮称) 史跡センター整備基本構想(案) は、史跡センターが平成10年に基本構想をまとめた際に早期整備に位置づけられていること、この時点で史跡隣接地に適地がない、旧小牧中学校の校舎により当該地の遺構が残っていないなどの理由で、現計画地点、主には堀の内体育施設を中心とした周辺が史跡センターの予定地と定められております。



この構想に基づき、事務局で（仮称）史跡センター整備基本構想を昨年度まとめましたので、報告いたします。

資料1-1については、概要版、資料1-2については、成果品となります。資料の1-2というのは、かなり詳細に述べられておりますので、本日は主に資料1-1概要版でご説明を差し上げることでご理解ください。

まず、史跡センター計画にあるようにスケジュールは、1ページの右下にあるように事業を進めているところです。平成26年度に基本構想、今年度に基本設計、平成28年度に実施設計、平成29年度には工事が入り、平成29年度末に開館、その後、運営に入っていく、かようなスケジュールで現在動いております。今年度、この会議や、文化庁、専門委員会等で基本設計、具体的な内容についてご審議いただくことになるわけですが、この基本構想がどういう位置づけになるかという、この基本設計を作るにあたっての、この館の性格、基本コンセプトとしてまとめさせていただいたものです。

今申し上げたスケジュールの上に3つの丸がトライアングルになっています。（仮称）史跡センターの整備基本構想の3本柱としては、順に織田信長が初めて石垣を築いた城郭遺構として全国的に注目を浴びているところである。また、発掘調査成果から、調査・研究や展示の充実を図ることが望まれ、それを一般に還元していく役割が求められる。

そして、平成10年度に策定した基本構想でゾーニングされた史跡園地ゾーンというゾーンがあります。旧市役所本庁舎跡地の整備工事も現在同時進行で行っているところですが、そこも園地ゾーンです。園地ゾーンにあたる現在の史跡公園の部分と、旧市役所本庁舎の跡地の整備、その完成に併せてより情報発信、小牧山の価値づけをきちんとできる施設が必要である、ということで史跡センター基本構想を策定するに至りました。

その史跡センターが果たすべき機能として考えているのが、2ページの円グラフです。

大きく4本柱を考えております。まずは展示、これまでの調査成果を見せ、伝える。地下に眠る遺構や改変、破壊された遺構などが史跡小牧山の中にはたくさんございますが、それをわかりやすく伝えることが必要と思います。

また、展示に際しては、調査・研究がその基本になると思いますが、これまでの調査成果や収集資料を整理・保管し、後世に残すこと、そして今後の調査・研究や、今後も続いていく史跡小牧山の整備についてベース・基地になっていく機能も求められています。

また、下の2つのマスのように、情報発信や交流、学習支援といった機能も同時に求められており、この施設を起点により広く小牧山の価値を、周知していきたいと考えました。

3ページをごらんください。

計画地の敷地と施設の概要について、ご説明をいたします。

上の地図では、左から昭和2年の地形測量図で見る計画地の部分を赤丸で囲っています。その部分を拡大し、航空写真に当てはめたのが真ん中の写真、現堀の内体育施設を中心とした一帯です。

史跡公園との絡みの図面は一番右の図面で、現在、薪能等が行われております曲輪402と言われる一番大きな曲輪に非常に近く、利便性が高いことが期待される箇所といえます。

といつつ、この部分も確かに史跡の中にありまして、戦国時代の当時には曲輪と言われる平らな面が幾つかあったということが想定されています。ただ、その曲輪の面は小牧中学校建設の際に削平を受け、遺構そのものは残存しておりません。加えて言えば、その校舎の基礎によって遺構についても残存の見込みがなく、何か新しいものを建てても遺構を壊してしまう可能性がない場所として、史跡の中では唯一の場所であるという理由で、平成10年に候補地とした経緯がございます。

そうはいいまでも、戦国時代当時の姿や、自然豊かな小牧山の姿を取り戻す事業を進める中で、その景観や歴史的背景にマッチした形状、規模のものを我々は求めていきたいと考えております。

ということで、史跡センター全体の空間構成としては、左下の図面ですが、この部分に昭和2年の地形測量図で想定される曲輪の位置を落としました。破線で囲まれている不定形の楕円形のものが2つありますが、それが曲輪217と218と言われる段々状に築かれた平たい部分です。この部分で、曲輪があったことも一部表現しつつ、失われてしまった地形を体感していただく、なおかつ情報発信であるとか、交流・体験にも資する、そうした機能を求めていきたいと考えております。具体的には施設の屋根の高さを想定される曲輪218、217の曲輪の高さに何とか合わせて、また曲輪の端の形状になるべく建物の軒であるとか、それから床面の形といったものを合わせることによって、ここが曲輪であったんだということを表現しつつ、中には展示、それから体験機能があるような施設にしたいと考えております。

4ページ目と5ページ目をごらんください。

空間配置と諸室機能ですが、ある意味曲輪に規定される形で床面積や高さ、センターの規模が自然と決まってきました。与えられた空間を最大限有効に利用するために、このような配分かと考えますが、この先の具体化については、今年度、基本設計の中で、より具体的に描き出していきたいと思っています。今回、ご報告する基本構想については、およそ1,200m<sup>2</sup>程度の、規模の施設で、これだけの機能を盛り込みたい、また展示のイメージとしては4ページ右側半分にあるような、ガイダンス、小牧山とはどんなところかを初めて来た人にわかりやすくするとか、この後、ご報告するような貴重な石垣が山頂部で出土しておりますが、それについては、出土状況では100%残っているものではない、復元に時間がかかったり、困難が伴う可能性もあり、この施設の中でよりビジュアル的にイメージしていただきやすいように、山頂に登るのが困難な利用者の方にも、山頂の状況をわかりやすくするインフォメーション、石垣が上にこのようにあったということを知っていただくような展示、そして企画として期間を置いて内容を変えていくことでリピーターを確保するエリア、レクチャールーム、交流サロン、資料室等々、小牧山にまつわるさまざまなニーズに応えられる内容をこの中に盛り込みたいと考えております。

5ページには展示空間とイメージをあげました。置き位置や動線については、あくまでもコンセプト、構想ですので、今年度の基本設計の中でより具体化していく作業としたいと思います。

事務局からの説明は以上です。よろしくお願いいたします。

**【池田会長】**

ありがとうございました。

委員の皆様方、何かご意見ありましたら、皆さんどうですか。

**【前原委員】**

先ほども事務局から説明があったように、うちの母親の話をどこかでもしたと思うんですけど、小牧山に登りたいと言って亡くなっていきました。坂に登れないですからね。

今も上に上がれない状況になっているということなので、こういう史跡センターみたいな形で、その施設自体はバリアフリーみたいな施設をご配慮いただくと、年寄りの方たちも、小牧山というものに対する思いが深いと思うんです。

ということをお願ひしたいということ、それから小学生が、いつも3学年

が目的地として選んできているんですが、レクチャールームやガイドスコーナーのところで、70人を想定しているということですが、今基本的には40人学級なんです。できれば80人を想定していただけるといいなあと思いました。

それから、小さい子にも小牧山の重み、歴史の重みを体験させるために、小牧市のホームページに「こまキッズ」があって、こんな市政をやっていますよ、こんなところへ行って見たらどうかというのが全部平仮名で非常にわかりやすく書いてあるので、そういう情報発信もご配慮いただけるとありがたいということ。

結構たくさん言って済みません、外国籍の子がうちの学校にもいまして、その子たちを対象とするかどうか、大変な作業になると思うんですけど、これはかなり難しいことですが、100人中5人ぐらい外国籍の方がみえると聞きましたので、そこもターゲットにするとなると、日本語以外でというのは逆に言うと世界に発信できるかなと。

以上です。

**【池田会長】**

ありがとうございました。

他によろしいでしょうか。

**【松永委員】**

これは、基本史跡センターですね。大手道とかありますよね、一直線。あそこはまだ何も考えてみえませんか。

**【事務局（小野）】**

資料1－2の最終ページをごらんください。

（仮称）史跡センター基本構想図という図面ですが、これは史跡センターはもとより、旧市役所本庁舎の跡地の部分の整備後の状況を、基本構想の中で図化しております。この一番西側、向かって左手側に真っすぐ延びているのが大手道でして、今回の整備ではこの部分をさわらず、大手道を境に旧市役所側の部分を整備いたします。ただ、そういったところも整備していかないといけないことは将来整備としては見込んでおりますが、ここ二、三年のうちで大手道をさわるといふ計画は今ありません。

この部分もお城としては肝になる部分で、何をおいても発掘調査をしてからでないと結論が出せないと考えております。今、発掘調査も場所を、優先度を定めている中で、こちら優先度は高いと考えておりますが、順番にやっ

ていくということでご理解をいただきたいと思います。

【松永委員】

いわゆる信長の城で、ここが一番注目の場所ですよ。ここは早くした方がいいんじゃないかなという気がするんですよ。テレビでよくやっているのは、ここが一番紹介されていましてよね。そうすると、ここをおくらすことがいいのか、疑問に思います。

【池田会長】

大手道の整備を史跡センターより先にとというご意見ですけれども。

【松永委員】

史跡センターと同時にやれば一番いいんですけどね。

【池田会長】

計画では、入っていないですね。事務局で、何かご意見をお願いします。

【事務局（小野）】

平成10年に策定しました全体構想の中で、大手道エリアの整備は中期整備から長期整備に位置づけられております。恐らくは今事業化されているものについては、来る事業とご理解いただければと思います。

【事務局（村田）】

現在、山頂付近、いわゆる主郭地区、次の(2)のところでも出てまいります。主郭地区では3段目の石垣が出たところで、そちらを今、優先度の高い整備、発掘調査と考えております。まずはそちらをやってからと思っておりますので、ご理解いただければというふうに考えます。

【池田会長】

松永委員の、こちらが一番重要だから先にとおっしゃるんですが、現在、上から順番に下へおりていくという計画に見えるんですが、下をさわるとそこが通れなくなって、上の発掘が遅れるという心配が多分事務局側にあるかと思えます。この通り道は確保した上で、次に順番に下へという形で、この重要性に関しては認識されていると思いますが、どういう順番にやるかという作業の順番は多分きちんとされると思います。そういう形よろしいでしょうか。

【松永委員】

とりあえずは。

【池田会長】

今、急に言われても、計画を変えることができないと思うので、そのこのこ

ろをご理解いただいて、大手道に関してはきちんとされるということで確認をさせていただきます。

**【梶間委員】**

策定資料1の3ページで、計画断面図ですが、本庁舎の跡地のところではないんですか。旧中学校用地史跡整備図か、東の方ですね。

**【事務局（小野）】**

そうです。

**【梶間委員】**

そうすると、こうやって土もしっかりしているし、曲輪がここに2カ所あるということですから、計画断面図というのは、これは高さですかね。背後の山と調和を図った建物の仕上げとして、屋根と軒で曲輪のというのは。

**【池田会長】**

これは、どちらからどちらを見るという、東西南北がないとわからない。

**【事務局（浅野）】**

すみません。まず場所の確認をしますが、史跡センターにつきましては、3ページ、資料1-1、真ん中に航空写真が写っています。真ん中に赤で丸がついているところが、今、堀の内体育施設の武道場がある場所です。このあたりに史跡センターを建設したいというものです。もともとここは、中学校の校舎が建っていたところですが、その跡地に史跡センターを建てるものです。

ご指摘がありました計画断面図ですが、3ページの右下、その左にある史跡センター全体の空間構成の図を上下切りまして右から見た図、方向では東から西を向いておる計画断面図です。計画断面図の右が山の方、北の方で、屋根の高さで曲輪を表現するというので、北側の山があり、次のちょっと高くなっている建物がこの曲輪217、推定ラインで屋根の高さで曲輪217を表現し、1段下がって、曲輪218を屋根で表現して、さらに下において、足りない部分については縁石等で表現するという断面図です。この左側にある空間構成を上下に切って東から見た図ということで、ご理解いただきたいと思います。

**【梶間委員】**

図面の関係から、すごくポイントが小さいので、見にくいです。ありがとうございます。

**【池田会長】**

曲輪の高さというのは、曲輪が前あった土地の高さという意味ですね。だから、ここまで土地があって、今これだけへこんでいますよという、この屋根の位置がちょうど昔の高さですよという意味だと思います。

【事務局（浅野）】

資料1-2、12ページをごらんください。これが今見ていただいたものを拡大したものです。わかりにくくて申しわけございませんでした。

12ページの上の図に青年の家が右にありまして、青年の家からだんだん南におりてくるという断面図になります。青年の家からこの下に曲輪217というのがあり、それを一部屋根の一番高いところで表現をする。1段おりて、曲輪218とありますが、それをもう1段下の屋根で表現をする。さらに1段下がって、下については縁石等で範囲を示すという断面図の拡大図ということでご理解いただきたいと思います。

【池田会長】

他にご意見ございませんでしょうか。

【事務局（村田）】

先ほど、前原委員からご意見いただきました史跡センターの中でバリアフリー化をというお話、レクチャールームを、教室は今、小学校40名なので平均で80名対応の広さにしてほしい、あるいは外国人対応の表記をというようなご意見をいただきました。こういったことも、今年の基本設計の中で検討反映させていただきたいと思います。

【池田会長】

他にご意見ないでしょうか。

【松永委員】

史跡センター、ここでは展示は例えば何カ月にも一遍変えるとか、そういうことは考えていますか。

【事務局（村田）】

5ページですが、展示空間とイメージの中で配置計画が載っております。真ん中やや右側のところに企画展示コーナーを計画しており、中身全てを変えらることは難しいですが、企画展示等々で新しい情報があれば更新していくようなことを検討しています。面積、場所、内容については、今年度の基本設計の中で進めていきたいと思っています。いつまでも同じものではなく、更新していきたいと考えております。

【池田会長】

何カ月とかと決まりはないけれども、なるべく更新を続けていきたいと。

**【松永委員】**

何でこんなことを聞くかといいますと、これは非常に地味なものに入るんですね。お城という感覚からいくと、天守閣があるわけでもなし、ぱっと見た目には建物があつたとしても、これ何だという程度です。はっきり申します。

ですから、そこでこういうことをしようと思うと、かなり展示に魅力がないとやっぱりだめになります。私、あちこちの城を回りましたから、単なる資料館があつても素通りが多いんです。そういうことを考えていくと、よほどのことを考えないとまくいかないと思います。

**【池田会長】**

他にご意見ありますか。どうやって魅力を出すかということですが。

**【藤岡委員】**

1つは、本当の復元というのは現実難しいと思うので、バーチャルの世界というか、現状の発掘した写真をもとにして想定できるような、こんな形になるのかなというようなシーンが出てきて、もう一度それがもとに戻るみたいな、それをいろんな場所を見せていくみたいなのがあると、小学生にもわかりやすいかなあと思いました。

回転率を上げるという課題が出されているので、それは考えていかなきゃいけない問題です。それを考えると、今の歴史館と下に造るものと、どこまでどうするのか。下を充実させようと思えば思うほど、上からおろしてくるだけというような話になる。上に登ったら何も展示物がない、あるいは、そんなところに民具を置いたって、何これとなる。わざわざお城に来たのに、それっぽいものが何もない、下だけで終わりとなってくると、一生懸命お城の入館者をふやそうと今まで努力してきているのに、それがなくなるような話はまずいと思う。上とのセットでどう考えるかが一番課題かと思います。

逆に、これだけお金を使うのに上の施設をもっと活用して充実させたら、その方が余程良いという話にもなりかねない。もう一回原点を踏まえて充実させないと、お金に見合うだけのものは、費用対効果と言われてつらくならないように、ランニングコストも踏まえて充実したいなと思います。

**【松永委員】**

もう1つ、いいですか。これは、あくまでも戦国の城だけを対象にされますか。

**【事務局（小野）】**



確かに、施設の内容のかなりの部分を戦国時代が占めるとは思いますが、現在に至るまでの史跡小牧山の全ての事象について取り扱うことが求められる施設だと考えております。例えば動植物を含めた自然であるとか、近現代に小牧山がどのように扱われてきたかなども、この中で紹介していきたいと考えております。

**【松永委員】**

なぜこれを聞くかといいますと、城の好きな人って、今、城ブームとかになってきています。そうすると、江戸時代が大体300なんです、城。そうすると、300の城、みんな見たいなということはあるかもしれない。じゃあ、ここへ来れば300の城の写真なら全部見られますよということは、例えばやってもいいのかなと思いました。

**【事務局（小野）】**

そういった他城郭との連携というのも、意識させていただいております。果たすべき機能の中に、他の城郭との積極的な連携や情報交換を行うこともうたわせていただいております。まさにそれが、おっしゃっていただいたようなことも含んでのことです。そのようなニーズにもある程度応えられるような内容にできたらと考えております。

**【池田会長】**

他にご意見はございますか。

**【梶間委員】**

私は小牧のことを詳細に展示すれば、それで事はかなうと思います。この資料のように、詳細にもう出ています。施設面はよくわかりませんが、展示内容や、機能のことについて記されておりますので、本来の小牧のお城についての展示ということになりますよね。そうすると、全国のお城というのとはちょっと拡大解釈じゃないかと思うんですけど、いかがですか。

**【松永委員】**

私は、その逆で、ちょっとこの展示では弱いなと思います。

**【池田会長】**

他にご意見はございますか。

私も伺わせていただきたいんですけど、ガイドンスコーナーに歴史館にある展示物が載っていますが、あれはここへおろしてくるんですか。

戦国時代の小牧山城のあり方から現代に至るまでを全部なさるんだったら、例えば小学生でも入ったら、最初に戦国時代が体験できて、出てくるときに

現代まで体験できるような、そういう動くものは考えていますか。例えば戦争中、第二次世界大戦中の小牧山はこうだったというのが、その中に入って体験できるバーチャルな感じですか。ここに入れば小牧の、小牧山を中心とした歴史が体験できるような計画は入っていますか。ただ、この時代だけですか。

【事務局（浅野）】

（仮称）史跡センターについては、小牧山を紹介するガイダンス施設という位置づけですので、例えば民具を展示するだとか、市内の発掘遺物を展示するだとかということは基本的にはできません。ただ、自然や過去の歴史ということについて紹介する施設という認識です。

先ほどの企画展示というコーナーもあるので、例えば企画の一つとして、全国の城を紹介するという事はありかと思いますが、常設展示に関しては、小牧山を紹介するための施設として建設を予定しております。展示物としても、小牧山城を紹介するものと考えています。

それから、CGとかバーチャルリアリティーというお話もありましたが、確かに現地に行きますと、発掘をやっても名古屋城を造るときに石を取ったり、石垣が崩れたり、全て当時のまま残っているという場所はありません。発掘状況はわかっていますので、それを3Dとかバーチャルリアリティーという映像をもって当時の姿を再現するようなことは今検討しております。それに備えて発掘で3D測量も進めております。

あと、歴史館との兼ね合いですが、市内に歴史館以外の資料館が今はない状態です。史跡センターは小牧山を紹介する施設ですので、歴史館の中の目玉で佐久間石を展示していますが、多分それはおろしてくると思います。ただ、それ以外の、歴史館で展示している民具ですとか、市内から出てきた発掘調査のものなどは、史跡センターには下ろせないです。

なので、山頂は市内の歴史を紹介する施設、あるいは展望機能をもつ施設で、下は小牧山を紹介する施設ということで住み分けさせたいと考えています。

【池田会長】

ありがとうございました。

事務局側のご意見では、基本的には小牧山の下史跡センターにおいては、いわゆる戦国時代、そして武将たちの活躍していたころの小牧山のいろんな状態がここで見せてもらえる。それ以外の小牧山があったころの位置、私たち庶民の生活などは上に行ってくださいという意味ですね。本当に小牧の歴

史、あるいは小牧山を中心とした歴史については上へ、小牧山そのものに関しては下にありますという住み分けをされるということですね。

基本的には山頂部のことや、下の曲輪についてどうなっていたか、どんな感じだったかを見せてもらえるのが下の史跡センターだという住み分けと考えてよろしいでしょうか。

【事務局（浅野）】

いえ、それで結構です。

【池田会長】

皆様方、そういう考え方ですけれども、何かご意見はありますでしょうか。

他のお城に関しては、石垣の組み方をこの小牧山は非常に珍しい形で、他のはこうだよというような、比較した展示は多分出てくると思います。それが毎回同じお城ではつまらないので、例えばこの形の石組みはここと、ここと、ここに近いのがあって、いや、それ以前の昔のはここなど、少し時間を変えて全体を紹介するかもしれないですが、一気に三百何個というお城は多分出てこないだろうと思います。私も、その辺のお城を展示するということはあまり考えていませんでした。

多分他のお城との連携というところで何らかの形で出てくるかと思います。その連携の仕方がどういうコンセプト、テーマで出てくるのかというのは今はっきりとわかりませんが、小牧山城だけが日本中の他の城から独立していることはあり得ないので、例えば信長の関係するもの、家康との関係とか、あるいは戦国時代など、いろんな切り方で見せていただけるんじゃないかと楽しみにしております。

【事務局（村田）】

今、会長が言われたように、いろんな企画展示を今後やっていく必要があると考えております。その中で、例えば織田信長であるとか、織豊時代、豊臣秀吉、徳川家康、織田信長が関連した城であるとか、石垣の組み方とか、いろんな企画の切り口はあると思います。皆様が飽きないような時期にいろんなものを作って、多くの方にごらんいただきたいと考えております。

【池田会長】

史跡センター整備基本構想について、このような説明でよろしいでしょうか。

(他に意見なし)

(2) 主郭地区発掘調査について

【池田会長】

それでは、次の主郭地区発掘調査について、事務局から報告をお願いします。

【事務局（小野）】

事務局より(2)主郭地区発掘調査について、資料の2-1、資料の2-2をもとにご説明をさせていただきたいと思います。

この報告につきましては、解説を交えつつ、昨年度の調査の様子を10分ほどのDVDでごらんいただきたいと思います。

史跡小牧山主郭地区というのは、大体小牧山の中腹から上の部分です。

小牧市教育委員会では、およそ11年間、この主郭地区、山頂の歴史館が建っている周辺の斜面の部分を中心に発掘調査を行い、約3,000m<sup>2</sup>調査を行いました。調査で出てきた部分をレーザーによって測量し、図のように石垣の位置と、状況については3Dで押さえました。資料の2-2で黄緑色の部分がこれまでに調査をした範囲、その中で推定、または確認できた石垣、あるいは岩盤の部分を赤い破線で示しております。

歴史館で展示している「佐久間」という墨書石垣石材については、星印の位置から出土しました。これについては、これまで安土城にて確認されていた墨書石垣石材の事例を13年遡る、確認されている中では、現在日本最古の墨書の事例です。たまたま今年度、「発掘された日本列島展」という文化庁主催の発掘速報展で全国5カ所の博物館を巡回展示ということで、この石が小牧山、小牧山城、また小牧市という看板を背負ってパネルで全国を回る予定です。

正面の階段と、それからスロープになっている上り口は、今まで動線になっていた関係で調査に入れずおりましたが、これまでの調査によって一番重要な小口、いわゆる出入り口に当たる部分であるという可能性が高まってきて、今年度、この部分について調査をさせていただく予定であります。

(DVD上映開始)

【事務局（小野）】

調査は、北東の斜面について、11月から実施しました。これは過去の調査の状況です。

人と石垣の大きさを比べていただくと、小牧山城に使われていた石垣がいか

に大きいかかわかっていただけるかと思います。

現在までにわかっているデータに基づいて、復元をした模型です。これも歴史館に現在、展示をさせていただいております。

第7次調査の調査区は北東から北にかけてのエリアです。

これは調査前です。定期的に定点撮影を行いましたので、だんだん土がなくなって、きれいに石が出てくる様子が地点ごとで確認していただけます。画面上は3カ月ぐらいかかっています。

北東の斜面です。上に見えているのが上段石垣Ⅰです。これが2段目、石垣Ⅱの残存状況です。後ろに細かい石が見えていると思いますが、これが裏込石、裏栗石と言われる石です。裏栗石がありますので、ここまでの高さ、これより上にあと二、三段はあったであろうと想定されますが、現在はそれが抜け落ちていて、基底列、ないしはその上の段の石しか残っていないということもわかります。

北東の斜面の定点観測です。順番に堆石土をどかしていきますと、次々に石が出てきます。これは崩れてたまった石です。崩れた石をどかすと、下から石垣が次々と顔を出します。

方向を変えて撮った北東の調査区です。大きく見えている石は、最初、石垣だと思いましたが、転落石でした。

2段目の石がきれいに一直線に並んでいる。まだこの上にもあったと想定できますが、並んでいたのは下の1列分がよく残っていたところです。

一番上の石垣、石垣Ⅰは、このように残っていて、下にきれいに座らせるための介石が入っていました。非常に興味深いのですが、土留石という石使いをしていることも明らかになっています。石により、裏込石と背面の盛土を区画している。石垣を造るためには、こうした土木工事を先にやっておくことが必要だということを技術的にわかった人たちの手による石垣工事であると、この調査で明らかになりました。

SK01、これは初めての確認です。穴があいていて、そのために2段目の石垣が少し崩れて前のめりにずれてしまっている状況を示しています。恐らくここだけ地盤が弱くて、それを補強したんだけど、やっぱり崩れてしまったということを示しているのではないかと思います。

これが先ほど紹介しました「佐久間」という墨書石材です。この石が平成22年度に出土しましたので、その後、全ての調査について、出てきた石1点1点このように洗浄、確認をして、墨書や刻印、そういったものがあるかない

か全て確認してから、仮置きをして、将来の整備などに備えていますが、残念ながらまだ2点目の墨書石垣石材は出土しておりません。

ここに石垣がもう1列並んでいることがはっきりしてきました。

掘りあがって、向こうまで石垣が続いている状態が見ていただけます。これが昨年度の最も大きな調査成果の一つである3段目の石垣、石垣Ⅲです。

ここに、特徴的な石があります。既に模型でも、調査成果が反映されています。

非常に急な斜面で慎重な作業が繰り返されておりますので、手数と時間がかかり、一度に多くの面積をあけることができないでいます。

今回、調査で見つかった石垣Ⅲは、約25メートルほどでした。

特徴的なのは、搬入の石材である花崗岩があることです。小牧山は岩山ですが花崗岩の山ではありません。よそから必ず持ってこないといけない。こちらにも河原にある丸い石ですので、河原から、下から必ず人の手によって持ち上げられたものです。

あくまでも想像の図面ではありますが、このように2段であるとこれまでの調査成果で想定していましたが、昨年度の調査を受けて、もしかすると主郭、山頂部の心臓部をもう1段石垣がめぐっているという可能性が出てきました。

その成果の公開として、今年の2月14日に、このように現地説明会をさせていただきました。

調査で出てきた石垣は、必要な情報を記録し、測量、写真撮影等をした後は、保護を優先するために、養生をした上で仮の埋め戻しをさせていただきます。露出しておくと、どんどんと遺構は傷んでしまいますので、せっかく出した石垣ではあるんですが、保護を優先しています。

(DVD上映終了)

#### 【事務局（小野）】

図面とお手元の資料に基づいて補足説明をさせていただきます。

小牧山城の昨年度の発掘調査は、北東斜面で実施しましたカラーのパフレットでも、北側に3段目らしき破線が台形に描かれているかと思います。これは北側の離れた小さな調査区でかつて、今でいえば3段目の石垣の一部が顔を出しました。

ところが、ちょうどここは曲輪と言われる平たい部分がありましたので、こ

の曲輪を囲むための擁壁状の石垣だろうと考え、石垣整備をする設計図を作るために、3段目の石垣が2段目の石垣のどこかでエプロンやテラス、バルコニーのように台形に2段目にくっつくだろうと考えておりました。この接続部がどこになるかというのを調べるために調査区を設定したのが昨年度の調査の目的だったわけです。ところが、調査に入ってみますと、全くくっつく気配がなく、北東側に並行して延びていってしまう。これは、単に北側にエプロン状に飛び出た曲輪ではなく、三重目の石垣の一部だという結論に思い至りました。今まで予想していなかった3段目の広がりや、今後確認してから、整備に活かしていかなければ、小牧山城の姿を正しく表現することは難しいと、担当者としては考えております。

3段目が見つかったから4段目、5段目があるのではというお話もいただきますが、何とも言えません。この3段目ですらないと思って調査に臨んでいたのが、出てきてしまったもので、あるともないとも、調査しない限りは確たることは申し上げられませんが、ここから下は斜面が急傾斜で、石を置くような余地もなかなかないかなという感触は感じていますが、信長は何をやっているかわかりませんので、まずは3段目を確認していくことを考えております。

昨年度までの調査成果についてのご報告は以上です

**【池田会長】**

ありがとうございました。

今の事務局の報告について何かご意見ございましたら、ご質問でも。

**【梶間委員】**

素人的に見ますとね、石積みの石が小さいんですね。細かいというか、一般的なお城、石積みから考えますと。これは山城だから小牧山にある石が大部分ということで、こういう石を使っているということですか。

**【事務局（小野）】**

石の大きさについてですが、1段目、2段目、3段目でそれぞれ石の使い方が違っております。きょうの映像で映っていたのは3段目で、それは30センチ四方ぐらい、2段目は50センチ四方ぐらいのものを平均的に使っております。

ところが、1段目に関して言いますと、資料の写真にありますように途方もない巨石を使っていることがわかっています。1段目の石垣の平均的な大きさとしては1石2トンの石を使っていると考えていますが、後の安土城の本

丸の石垣で約1トン、さらに後の名古屋城の本丸の石垣では500キロ程度と聞いています。その意味では、初めての名城づくりなんだけれども、信長はとんでもない石使いをしているということが言うことができるかと思います。

【池田会長】

他にございますか。

(挙手する者なし)

## 6. 議題

### (1) 今後の小牧山整備計画について

【池田会長】

それでは、議題に入ります。

今後の小牧山整備計画につきまして、事務局から説明をお願いします。

【事務局（浅野）】

お手元の資料3をごらんください。

小牧山課が主管となる小牧山の整備について、ここに掲げた3つを同時に進めております。旧本庁舎の整備、(仮称)史跡センターの整備、山頂部の整備、この3つでございます。

旧本庁舎整備のスケジュールについてご説明させていただきます。

昨年度行いました旧本庁舎の取り壊し工事が終わり、一部土を盛っています。現在は、その盛った土を落ちつかせる意味で固めてありますが、今年の秋口からの予定で、旧本庁舎跡地の基盤整備工事を行いたいと考えております。これは、またさらに土を盛り、大方の復元をしようという工事です。旧本庁舎跡地部分は、戦国期の土塁ですとか、堀、あるいは曲輪があった部分ですが、旧本庁舎を造る際に大分削ってしまっております。それらをもとに戻すような復元、史跡の整備を行おうと考えており、今年度については大まかな地形の復元のための工事を行います。

28年度は、旧本庁舎跡地整備工事ということで、植栽、階段、案内看板などを整備しようと考えております。

(仮称)史跡センター整備ですが、先ほど基本構想案ということで、ご報告をさせていただきましたように、平成26年度に基本構想を策定いたしまして、それに基づき今年度、建設及び展示の基本設計を行おうと考えております。建設といいますのは、建物自体の基本設計で、展示といいますのは、そのう



ちの中身の基本設計を行うものです。28年度に建物及び展示の実施設計を行うとともに、堀の内体育施設の解体工事を実施する計画です。

平成29年度に（仮称）史跡センターの建設工事、あるいはその周辺の地形の復元の整備工事を行う予定をしています。

基本設計と実施設計の違いになりますが、まず26年度に策定した基本構想はおおむねこのような位置にこんなものを造るんだよという考え方を示したものです。それをもとに下絵を描くのが基本設計です。ここで、皆さんにご意見をいただいたものを参考にさせていただきながら検討して、作った設計をもとに28年度に実際に設計図を起こす。清書を行うようなものが実施設計になりまして、それをもとに29年度に建物を造っていくという流れです。

山頂部の整備ですが、先ほど主郭地区の発掘調査の成果をご報告しましたが、山頂歴史館の前にあります石階段部分、東側屋外トイレの前の坂道部分、こちらの発掘調査を27年度に行う予定です。

あわせて、歴史館についても、耐震性に問題があるという判断になり、今年度、耐震改修工事を行います。ここにあります6月8日から10月15日は、歴史館の休館期間です。6月8日から10月15日までの間、歴史館を休館して内部の耐震改修工事を行います。

28～29年度には、主郭地区石垣の一部公開に向けた仮整備をあげてございます。報告のように、26年度の調査で3段目の石垣が見つかったこと、これが何を意味するものなのか、今年度、専門委員会や関係の方々との調整をとりますが、もう少し調査をしないと今後の整備に進めないという意見があるかもしれません。場合によっては28年度以降も引き続き主郭地区の調査を行うような予定をしております。

また、28年度以降について、今後、関係機関と調整をとり、専門委員や皆様方のご意見をいただきながら、場合によっては発掘調査が継続することになると、現状、調査区は整備に向けて埋め戻しがしてあります。現地に行っても、その当時の状況がわからないので、歴史館の西側で露出している石垣の部分的公開に向けて、28～29年度に整備をしていこうという計画も考えております。

内容については、今後、検討しますので、具体的な案はまだございません。

会議におきまして、先ほど説明させていただきました史跡センターにおいてこのような機能や展示があるといい、あるいは山頂部の調査などについてもご意見をいただきまして、それをもとに、史跡センターの基本設計や発掘調

査等々について検討してまいりたいと思います。忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

【池田会長】

ただいま事務局から説明がありましたが、何かご質問ございますか。

【藤岡委員】

センター予定地なんですけど、中学校を造るに当たって、かなり削られたのはわかりますが、今回、建物を撤去した後の基礎以外のところを念のためないという確認をとりあえず入れて最終チェックをしてもらいたい。何かそこから出たとなると、センターの建設自体が後ろ倒しになることが完全にはないとは言いきれない気がするのをお願いしたいと思っております。

【池田会長】

最終チェックをもう一度ということですね。

【梶間委員】

昔の戦時中の遺骨が出てくるとか、そういうことはないと思うけれども、史跡を掘り下げるところまではそう深くいかないだろうか。ただ、それを確認するためだという解釈ですね。

【事務局（村田）】

既に専門委員会でも、断面図からその下にはもうないですよということが確認されております。

【藤岡委員】

基礎を入れるときに掘る部分はないだろうと思うんですけど、それ以外の土間に当たるところなど、若干不安が。

【事務局（小野）】

昭和2年の地形が赤線で、現況が黒線でL字型に大きく削り取られている状況が確認できまして、もとの曲輪面に、あったかもしれないその遺構面を大きく削り取ってしまっています。周辺部はあるかもしれないということで、周辺部の整備をする際には調査の予定を組んでいこうとしていますが、今回のエリアについては、ない調査の必要性も十分理解しておりますが、その調査の必要性も無いという見解をいただいております。

【池田会長】

ありがとうございました。

他にご質問等はございませんでしょうか。

(挙手する者なし)

## 7. その他

【池田会長】

それでは、その他にまいりたいと思います。

事務局から何か連絡事項はございますか。

【事務局（村田）】

特にはございません。

【池田会長】

委員の皆様方から何か連絡、あるいは報告したいことはありませんか。

ないということよろしいですか。

(挙手する者なし)

【池田会長】

長い間どうもありがとうございました。本日の議題は全部終了いたしましたので、進行を事務局に返させていただきます。

【事務局（村田）】

池田会長、ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の議事は全て終了いたしました。慎重な審議をいただき、ありがとうございました。

これをもちまして、第16回史跡小牧山整備計画策定会議を閉会させていただきます。